



「産業遺産と博物館を巡る」 ーものづくり文化の基点を訪ねてー

東京産業遺産学会講演資料

2026年7月25日

井草邦雄



「産業遺産と博物館を巡る」発表目次

♥ はじめに： 私の産業技術博物館フォーラムの紹介

♣ 博物館にみる産業資本形成とものづくり技術の系譜

❖ 産業資本形成を促した銅鉾山開発の歴史を映す博物館ー

- ・ 日鉾記念館（JX金属、日本産業と日産、日立製作所）
- ・ 小坂鉾山事務所鉾山資料館（藤田組）
- ・ 別子銅山記念館（住友企業グループ）
- ・ 足尾銅山記念館（古河財閥）

・ 参照： 史跡となった銅鉾山の博物館（博物館紹介）

<https://dailyblogigs.com/2025/08/17/dokozan-mine-museums/>

❖ 近代産業としての陶磁器とセラミックス技術の発展がみえる博物館ー

- ・ ノリタケの森 ・ ノリタケミュージアム
- ・ TOTOミュージアム
- ・ INAXライブミュージアム
- ・ 碓子博物館（日本ガイシ）

・ 参照： 産業陶器とセラミックスの博物館（博物館紹介）

<https://dailyblogigs.com/2024/09/14/sanngyou-toki-seramikku-m-jj/>

❖ 自己紹介

- 群馬県富岡市生まれ (1942)
- 東京都立大学経済学部卒業 (1967)
- アジア経済研究所を経て立命館アジア太平洋大学 (2001－2014)
研究テーマ：アジアと日本の産業発展
- 政府ミッションで「マレーシア日本国際工科大学」の設立に参加 (2006-2011)
- マレーシア日本国際工科大学 (MJIT)客員教授 (2012年－2014)
：客員教授時代に学内に「日本の産業技術発展」博物館を開設
- 「アジア日本産業技術博物館フォーラム」を個人で開設・HPで発信 (2015-)
HP: <https://igsforum.wordpress.com/japanesehomepage/>
mail: kunigusa@gmail.com

♣ アジア日本産業技術博物館フォーラムの紹介

Asia Japan Techno-Museum Forum

アジア・日本産業技術博物館フォーラム



(私の産業博物館紀行

アジア日本産業技術博物館フォーラム



Japanese Homepage QR

○ 産業博物館と産業遺産への訪問記録



♣ 各地の歴史的な産業遺産や企業博物館の訪問、
産業社会創成の歩みと創業者の足跡などを訪ねた見聞録です

HP: <https://igsforum.wordpress.com/japanesehomepage/>

mail: kunigusa@gmail.com

❖ 日本の産業資本形成を促した銅鉾山開発の歴史を映す博物館

- 銅鉾山開発は、明治期、日本の産業革命・産業近代化の基盤を築いた
 - 特に、四大銅鉾山、日立鉾山、小坂鉾山、別子銅山、足尾銅山は重要
 - ・日立鉾山は日立製作所や日産グループ（日鉾記念館）
 - ・小坂鉾山は藤田組同和グループ（小坂鉾山事務所鉾山資料館）
 - ・別子銅山は住友財閥グループ（別子銅山記念館）
 - ・足尾銅山は古河財閥グループ（足尾銅山記念館）
- 銅山開発は大規模な鉾害、広範な環境破壊の原因（産業公害のはじまり）
 - 足尾鉾毒事件、大煙突、脱硫装置、精錬所、緑化対策
- （参考）[各地の銅鉾山](#) ➡

♣ 日本の主要な金銀銅鉱山



❖ 日本の金銀銅鉱山

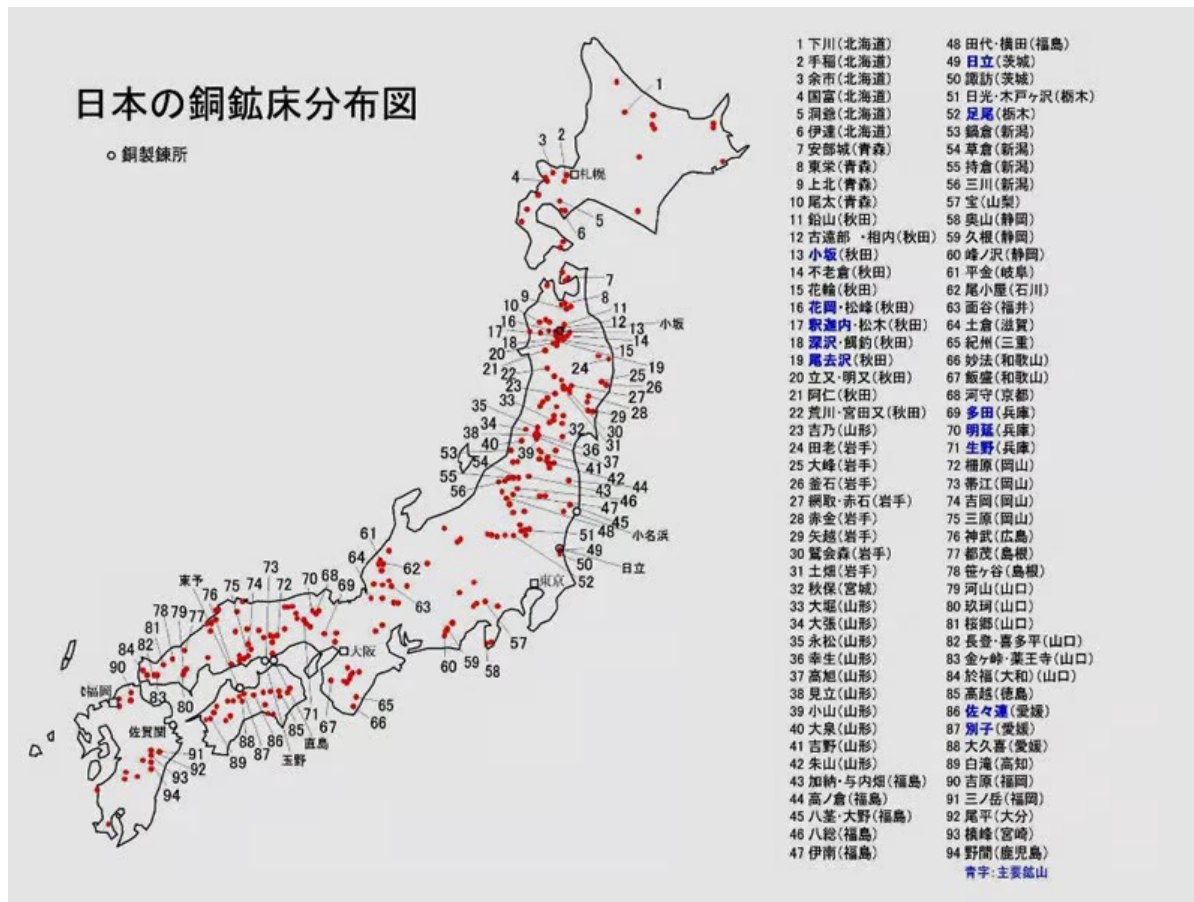
・ 中世末から近世までの日本は金属生産が盛んな**鉱山国**であった。佐渡金山、石見銀山、別子銅山にそれぞれ代表される金・銀・銅はその象徴。

・ 明治時代には西洋から近代的な鉱山技術が導入されて、多くの鉱山が再開発され新規に開発された。

・ **明治は日本の歴史の中で最も急速に鉱山開発が進んだ時期**

・ 参照：[石見銀山の自然史 日本の主要な金銀銅鉱山](https://sanbesan.web.fc2.com/iwami_ginzan/mine_japan.html)
https://sanbesan.web.fc2.com/iwami_ginzan/mine_japan.html

♣ 日本の銅鉱床の分布図



○ 日本は有数の銅生産国であった!!

→ 日本は領土の面積の割には銅資源に恵まれ、鉱山分布図に見られるように多くの銅山があった。昭和初期までは世界有数の銅の輸出国でもあり、秋田県小坂、尾去沢、岩手県田老、茨城県日立、栃木県足尾、愛媛県別子などでは鉱山あるいはその近くで銅を製錬し、副産物として金、銀をも産出した。現在、日本に銅山は皆無で、すべて輸入鉱石に頼り、佐賀関（大分県）、東予（愛媛県）、直島（香川県）、日比（岡山県）、小名浜（福島県）、小坂（秋田県）などの製錬所で銅を生産。

・ 参照：山口大学術資料展示館

https://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~msoc/collection/element_12.html

・ 参照：https://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~msoc/collection/element_12.html

♣ 日鉱記念館

—1985年に開設された日本鉱業（J X 金属）の銅山記念館—

所在地：茨城県日立市宮田町3585 Tel.0294-21-8411

HP: <https://www.jx-nmm.com/museum/about/outline.html>



日鉱記念館(本館建物)

- 前身となる **日立鉱山の足跡と近代鉱工業の歴史**を紹介
- 本館のほか、**鉱山資料館、史跡旧久原本部、豎坑櫓**などから構成

展示内容：

- ・ 日立鉱山の概要紹介：鉱山施設、模擬坑道、削岩機、豎坑巻揚機など
- ・ 日立鉱山の開山から今日までの足跡に関する歴史資料
- ・ 創業者久原房之助と鮎川義介の足跡と事業

○ 日鉱記念館の展示内容



本館展示コーナー



日立鉱山の鉱石



鉱山町の情景パネル



日鉱記念館内の久原・鮎川の展示コーナー

○ 日鉱記念館の関連史跡展示

See: <https://serai.jp/tour/1115768>



日鉱記念碑の久原本邸



大煙突跡



鉱山資料館



削岩機など（鉱山資料館内）



日立鉱山の坑道（鉱山資料館内）

❖ 日鉱記念館にみる日本鉱業の歴史と事業展開

— 日鉱記念館にみる鉱山開発からの近代産業の形成への系譜 —

♣ 久原房之助（久原鉱業の創始者）：



久原房之助

・ 赤沢銅鉱山買収(1905)→久原鉱業所(1907)→久原鉱業(1912)

（日立鉱山を開発、国内の鉱山20以上を買収、朝鮮の鎮南浦、佐賀関に製錬所を設置して銅鉱山事業、銅精錬事業で世界的企業に躍進）

（小平浪平による日立製作所の設立にも貢献）

♣ 鮎川義介（日本産業の創始者）



鮎川義介

・ 久原鉱業→日本産業(1920)→鉱業部門を分離して新「日本鉱業」へ

（油田開発等に進出、台湾、朝鮮で鉱山の経営 etc.）

（新興財閥日産グループを構成、別事業として自動車(日産)、機械工業に進出）

❖ 日本鉱業の歴史と事業展開（前期）



久原房之助



日立鉱山の発展（最盛期の鉱山）



日立鉱山の大煙突

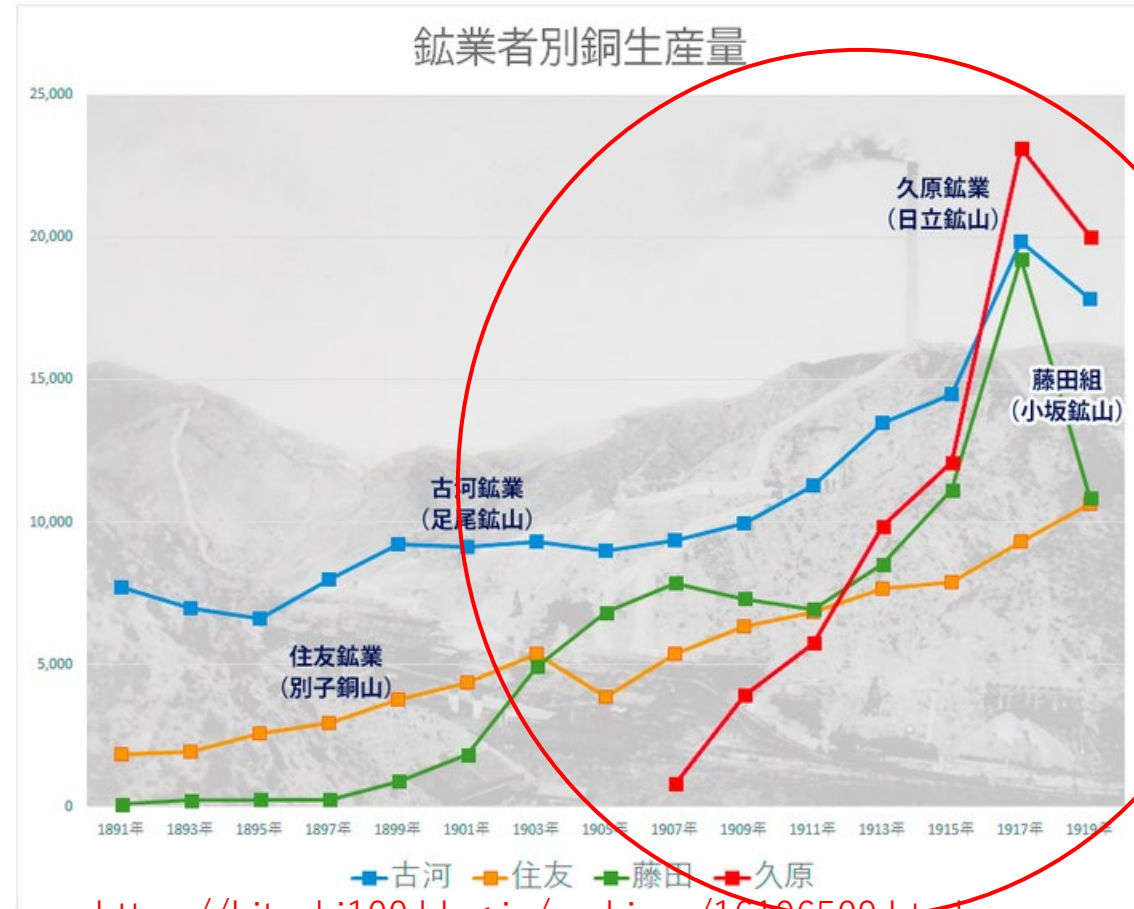
- ・ 赤沢銅鉱山買収(1905)→久原鉱業所(1907)→久原鉱業(1912)

・ 参考：日本の四大銅山を比較－ 1 ／ 「日立鉱山」茨城県日立市：大煙突とさくら100年プロジェクト
<https://hitachi100.blog.jp/archives/16196509.html>

❖ 日本鉱業の歴史と事業展開（発展期）



佐賀関に製錬所（1910年代）



久原鉱業（日立鉱山）の銅生産の推移

❖ 久原鋳業が育てた小平浪平と日立製作所



<https://denzai-zeus.com/ogawa-news/kodairanamihei>

❖ 鉱山経営から日本産業（日産）へ



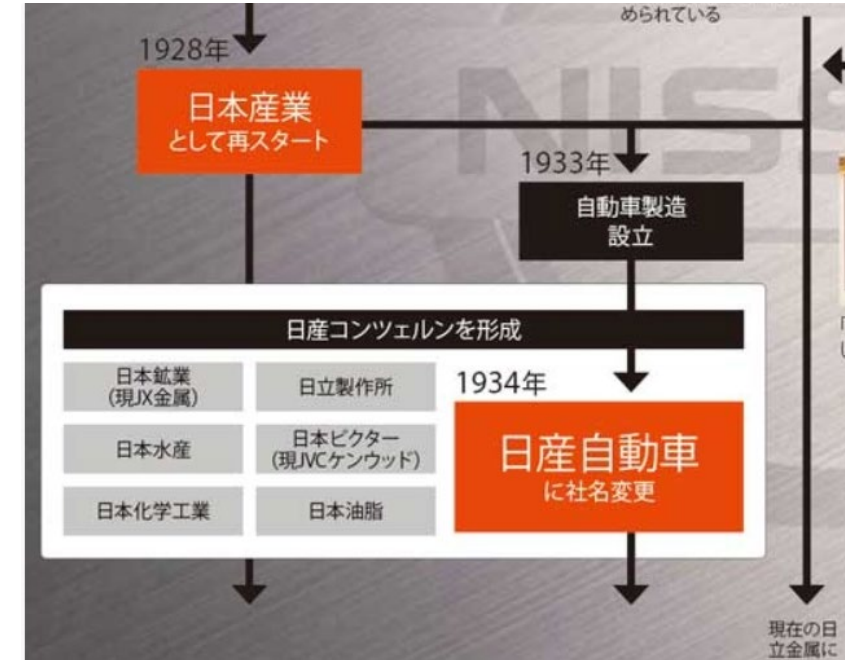
鮎川義介



機械・石油開発にも進出する
日本産業



鮎川の日産自動車記念写真





小坂鉦山事務所 鉦山資料館

所在地：秋田県鹿角郡小坂町小坂鉦山字古館48-2 0186-29-5522

HP: <https://kosaka-mco.com/pages/46/>

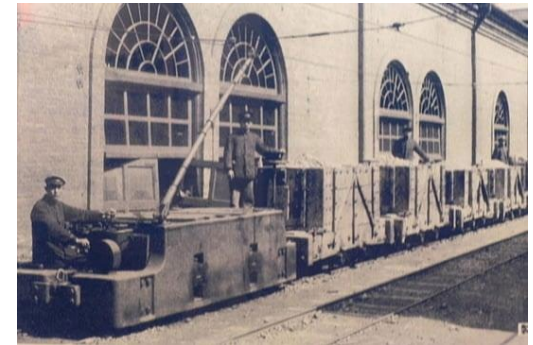
- ・ 藤田組が巨費を投じて建設した建築の魅力
- ・ 小坂鉦山の航空写真、明治期の小坂鉦山設備など展示



復元された小坂鉦山事務所



鉦山資料館内部



明治期の小坂鉦山設備

❖ 小坂鉱山の成り立ちと発展

- ・当初、1861年に金、銀の鉱山として**南部藩の手で採掘**
 - ・明治政府が接收、官営鉱山→**1884年（明治27年）に藤田組に払い下げ**、当初不調
 - ・藤田組にいた**久原房之助が黒鉱の再発見**と銅精錬の成功で有力な銅鉱山に復活
 - ・藤田組の**藤田伝三郎により採炭の近代化**と銅需要の増大で銅生産が拡大
- **藤田財閥の形成**（現在のDOWAグループなど）



久原房之助



藤田伝三郎

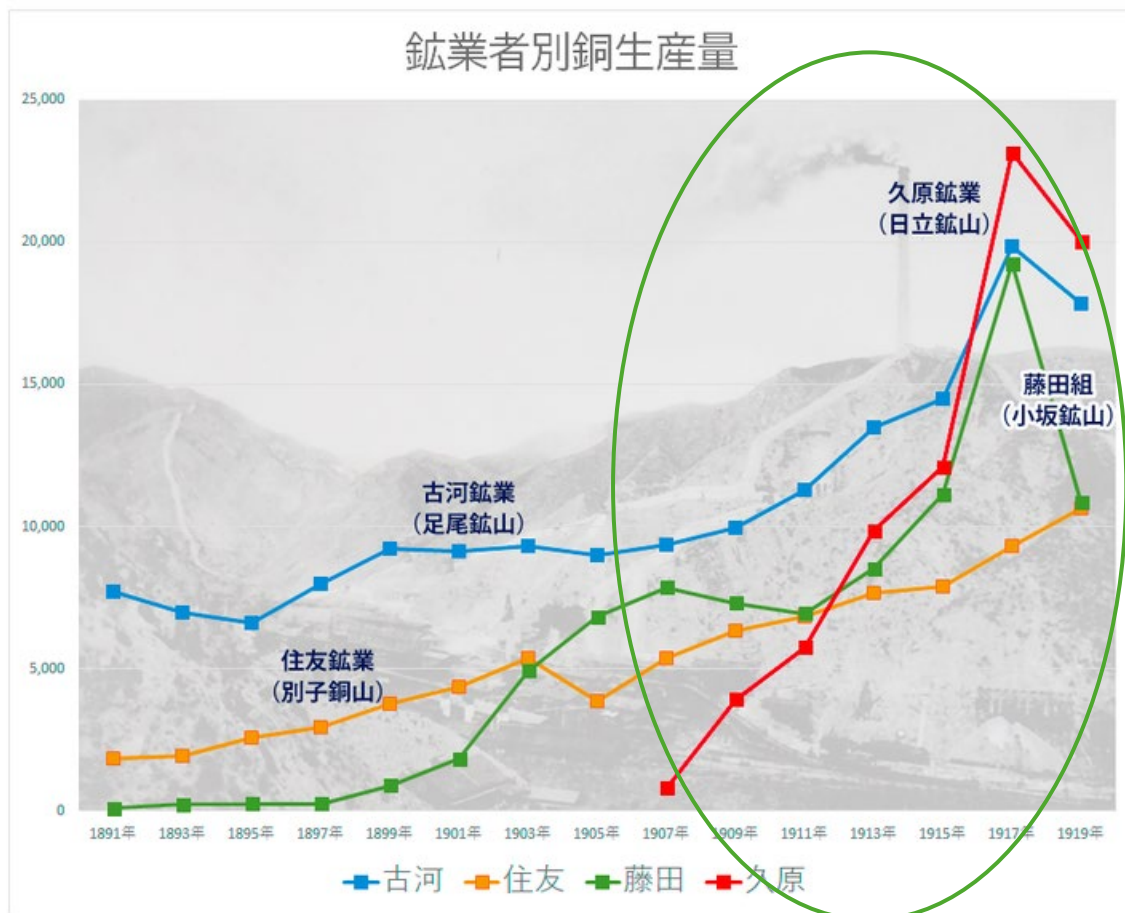


初期の小坂鉱山



最盛期の小坂鉱山

❖ 小坂鉱山と藤田組のその後



<https://hitachi100.blog.jp/archives/16196509.html>

小坂鉱山の銅生産の推移

○ 藤田財閥の事業

- ・ 藤田鉱業 (1917年設立)
- ・ 藤田銀行 (1917年設立)
- ・ 小坂鉄道 (1907年設立)
- ・ 藤田観光 (1955年創立)

○ DOWAグループ (藤田財閥の後継)

- ・ DOWAメタルマイン (製錬)
- ・ DOWAエコシステム (環境・リサイクル)
- ・ DOWAエレクトロニクス (電子材料)
- ・ DOWAメタルテック (金属加工)

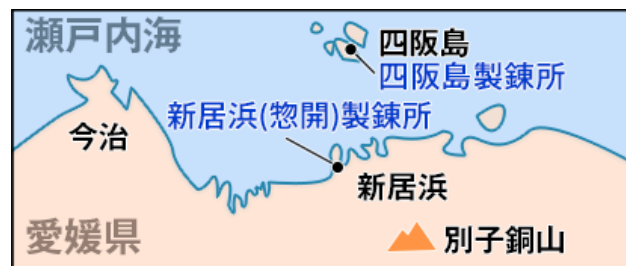
→ 非鉄金属の製錬、加工、環境・リサイクルを主たる業務とするDOWAグループ



別子銅山記念館

所在地：愛媛県新居浜市角野新田町3-13

HP: <https://besshidozan-museum.jp/>



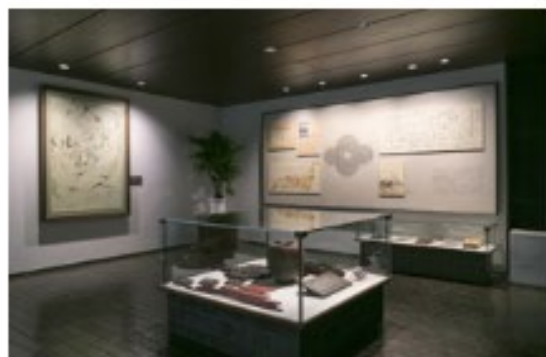
別子銅山の位置



別子銅山記念館



銅山記念館の展示コーナー



泉屋コーナー展示



歴史コーナーの展示



鉱山模型の展示など

❖ 別子銅山と住友グループの成り立ち (住友の成り立ちは江戸時代にさかのぼる)

○ 住友家の家祖は**文殊院**と称した仏教徒**住友政友**

- 江戸寛永年間、住友家が京都に「**富士屋**」の屋号で書物と薬の店を開店
- **蘇我理右衛門**が銅精錬（銅吹き）「**泉屋**」を営む
- 理右衛門**息子の友以**が**住友家**に入り銅事業に参入（**住友政友**）
- **住友家**の田向重右衛門一行が**別子銅山**を検分、**幕府**に**開坑**を願い出る
- 採鉱初年の産銅量は約19 t だが、**元禄時代に約1,500t 以上**
- しかし、**幕末**には構内水害などで**疲弊**



文殊院像
(住友政友)



住友金属鉱山の歴史 https://www.smm.co.jp/corp_info/story/01/

銅精錬（銅吹き）の図

❖ 近代化と同需要増大で復活発展する別子銅山

- 住友家の**広瀬宰平**が明治政府の許可を得て**別子銅山の近代化**を図る
 - 坑夫の待遇改善
 - 人力での採鉱工程に替えて火薬・ダイナマイトを導入
 - 坑道に鉱石搬出シャフトを設置（蒸気機関による巻き上げ機）
 - 別子における鉱山鉄道の開設（明治26年）



広瀬宰平



幕末・明治初期の別子銅山



明治19年開通の第一通洞



拡大する銅山と鉱山町



整備される鉄道網



新居浜の精錬所



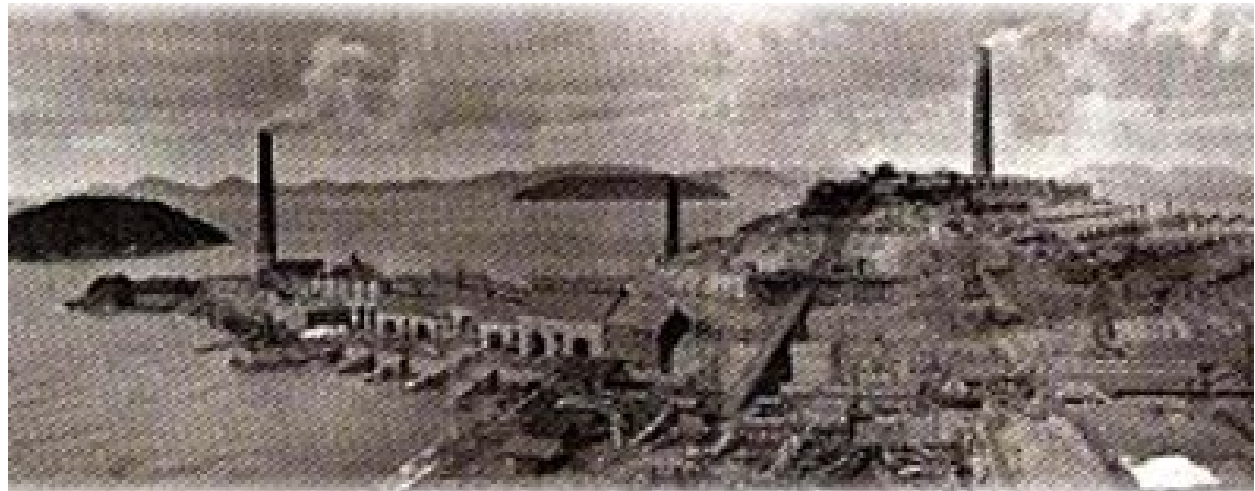
❖ 別子銅山の発展と併せて鉱害防止にも取り組んだ伊庭貞剛

○ 広瀬に次いで経営を引き継いだ伊庭貞剛

- ・ 荒廃した山々と住民の苦境を見て、事業拡大だけでなく環境保護に取り組む
(**精錬所**を無人島の四阪島への移転、**住友林業**などの設立)



伊庭貞剛



1920年代の別子鉱山と精錬所

❖ 別子銅山を基点とする住友グループの形成と発展

- ◆ ・銅山業から銅精錬や蒸気機関エネルギー開発へ
- ◆ ・石炭・電力事業を興し、銅製品加工から**電線・伸銅業**が派生
- ◆ ・鉱山の機械修理・製作部門から**機械工業、電気工業**
- ◆ ・鉱山の土木部門から**建設業**
- ◆ ・鉱山の木炭・坑木部門から**林業開発**に発展
- ◆ ・煙害原因の亜硫酸ガスの無害化から**化学工業**が派生
- ◆ ・**銀行・生命保険、不動産**など へ



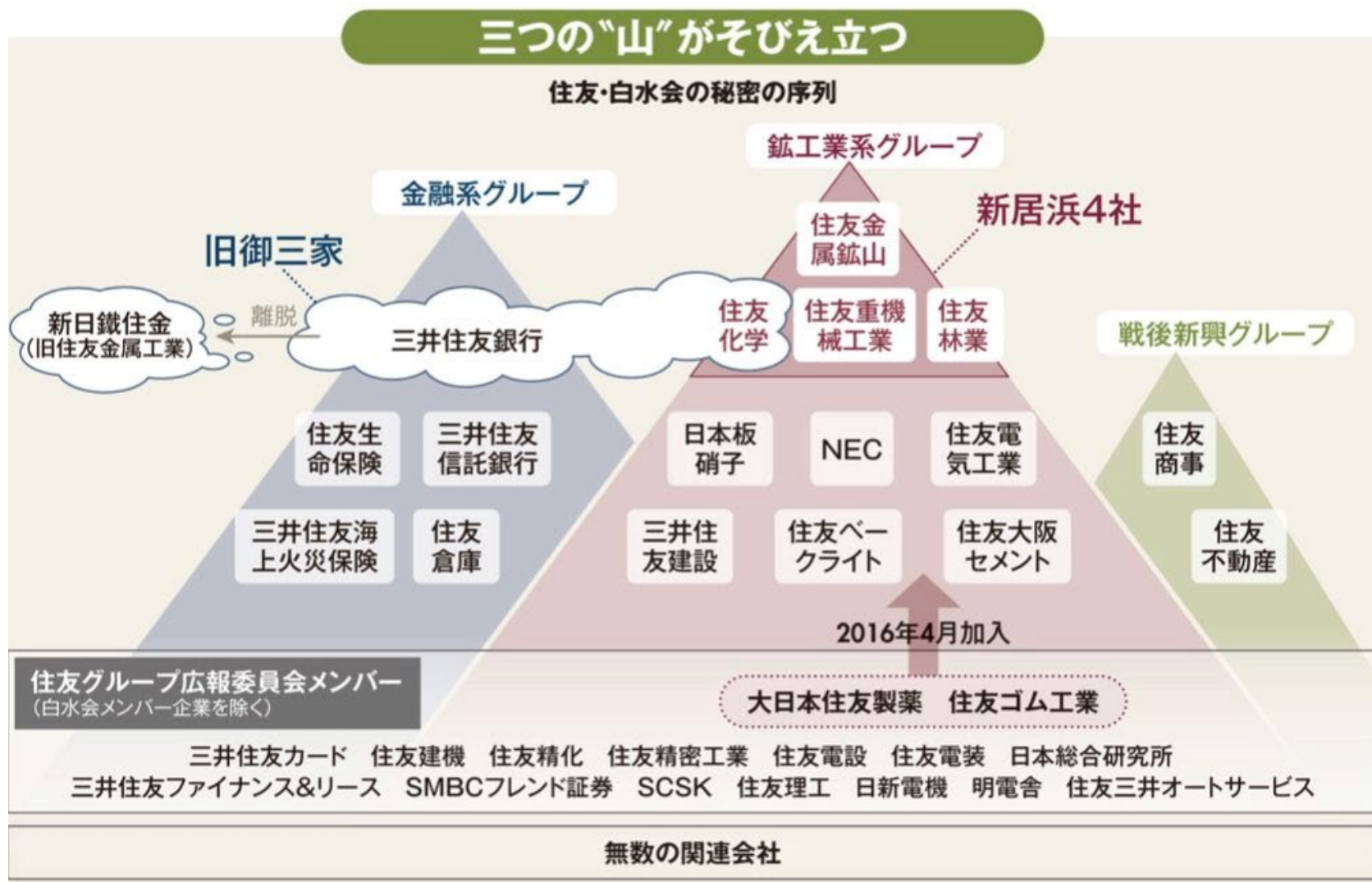
2025大阪・関西万博のパビリオン「住友館」



住友企業グループ

住友金属鉱山、住友化学、住友重機械工業、住友林業、三井住友銀行、住友金属工業、住友化学、住友商事、住友不動産、住友電気工業、日本電気など日本を代表する企業群を形成

❖ 住友企業グループの構成



430年の歴史が培った「住友の事業精神」受け継ぐ住友グループ

住友商事

「日本書紀」の「西の國」は「西の國」を指す。日本書紀の「西の國」は「西の國」を指す。日本書紀の「西の國」は「西の國」を指す。

<http://www.sumitomo-corp.com/ja/en>

NSG

[illegible]

<http://www.nae.co.jp/>

水と生き4巻題

[illegible]

Journal of Management Education 36(7)

[illegible]

日本製薬工業グループは、抗がん剤治療品、糖尿病治療薬、アレルギー薬、オゾン分解製剤など幅広い製薬事業、マーケティングセンターなど、多岐にわたる分野の製薬事業、製薬ならびに化学によるソリューションを提供して、

Figure 10

COCK

2025年グループ別、システムカンパニーからシステム開発、建設サービス、
行内IT開発、ITサービスのほか、行内ハードウェア開発、保守まで、2025年
に、グループ全体のITサービスを、グループ全体のシステムとして提供すること

[illegible]

© 2000 Blackwell Science Ltd, *Journal of Internal Medicine* 247: 105–112

 住友グループ広報委員会

Downloaded from <http://ajphaphapublications.sagepub.com> at UNIV OF CALIF SDI on June 11, 2015

<https://www.scribd.com>





足尾銅山記念館

—足尾銅山の全貌と古河グループの歴史を語る史料館—

所在地：栃木県日光市足尾町掛水2281

HP: <https://www.ashiomine.or.jp/>

○ 館内の展示：

- ・ 創始者**古河市兵衛の人物像**をはじめ、**銅山の歴史**、**探鉱進技術の進化**、**町の発展**、**鉱害の発生とその対応**、**古河グループの形成と発展**などを時代の変遷とともに展示

- ・ **創業150周年**記念事業の一つ

- ・ 以前あった「**古河足尾歴史館**」は2024年4月閉館



復元開館された足尾銅山記念館

○ 記念館内の展示内容



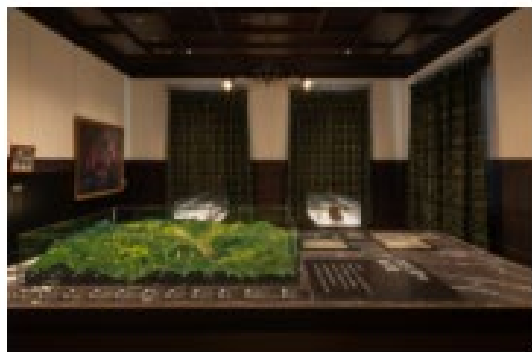
足尾鉾山と町づくり



課題への挑戦



現代への手紙 復元室



鉾山の記憶ジオラマ



古河グループの発展



鈴木喜美子の絵画

♥ 足尾銅山開発進展と古河グループの歴史

<足尾銅山前史>

- ◆ ・ 徳川幕府直轄支配となり、最盛期は年間1,300トンの銅を産出
- ◆ ・ 幕末から明治初期にかけてはほぼ閉山状態
- ◆ ・ **明治5年（1872年）に民間に払い下げ決定**
- ◆ ・ 明治10年に**古河市兵衛が廃鉱同然の足尾銅山を買収、経営に着手**



明治初期の足尾銅山



古河市兵衛



https://widetown.cocotte.jp/japan_den/japan_den126.htm

江戸時代の足尾銅山図



足尾の鉱山地形

<足尾銅山の発展>

- ◆ ・大正5年(1916年) には年間産銅量が14,000トンを超える
- ◆ ・足尾町の人口も増えて大正5年には38,428人に達している。
- ◆ ・人口増加、町には鉱山住宅、商店、病院、学校及など大鉱山町に成長
 - 足尾銅山の発展は、**古河家の事業拡大**と多様化に結びつき、古河本店が**古河鉱業事務所**（古河鉱業会社）となったほか、**横浜電線製造、日本電線、古河商事、古河銀行**などを包含して、後の「**古河財閥**」を形成



通洞坑跡



細尾第一発電所跡



<https://www.city.nikko.lg.jp/material/files/group/42/report10.pdf>

大正期の古河足尾鉱業所周辺

鉬業者別銅生産量



< 鉍毒被害の発生と拡大 >

- ・ 発展の一方で、深刻な鉍害の発生と拡大する社会問題の発生



製錬排煙・流域の有害物流出



住民の反対運動



足尾下流の渡良瀬川流域



反対運動の先頭に
立った田中正造



<https://www.city.nikko.lg.jp/material/files/group/42/report10.pdf>

大正期の古河足尾鉍業所周辺



< 古河家の事業発展と多角化 >



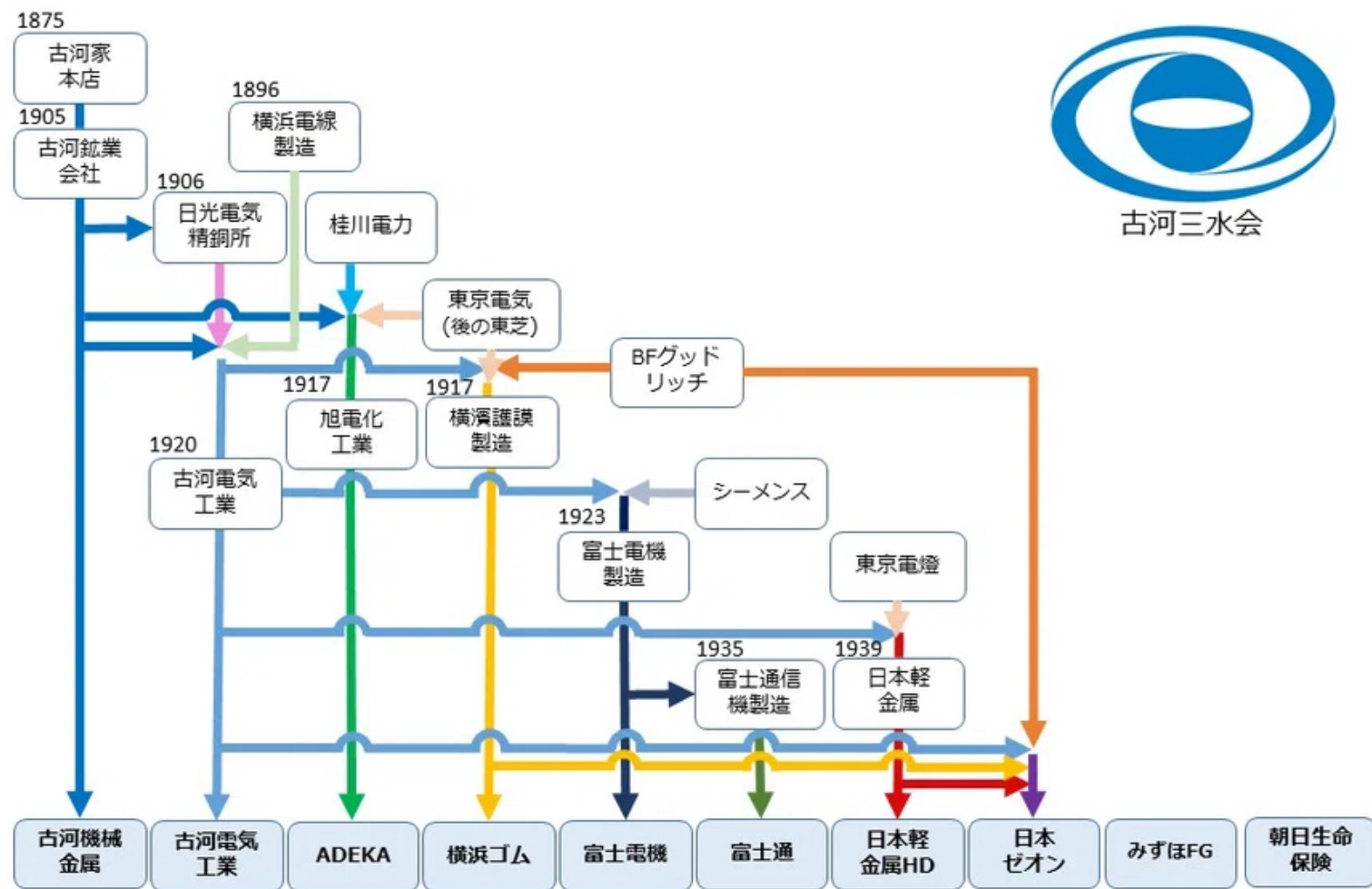
○ 鉱業から工業への多角化（垂直統合）

- 採掘された銅を輸出するだけでなく、**加工して付加価値**をつける（垂直統合）
- **横浜電線製造所（1884年、現古河電気工業）** 設立、鉱山と通信・電力インフラを直結

○ 多角的経営とコンツェルンの進展成

- ・ 市兵衛の**実子古河虎之助**が3代目当主（1905年）となり財閥の体制強化
- ・ 銅事業で得た資金を元手に**石炭（足尾炭鉱）、化学、機械などへ事業を拡大**
- ・ ドイツのシーメンス社と合併で**富士電機**を設立、重工業・インフラ部門へ
- ・ 戦後の財閥解体により同族経営は終焉を迎えるが、現在の**古河グループ**へ
(古河機械金属、古河電気工業、富士通、富士電機など)

古河グループのあゆみ



❖ 伝統産業技術を生かして創成して近代産業の博物館

—近代産業としての陶磁器とセラミックスの発展をみる—

- 衛生陶器、工業原料となるセラミックなどの近代産業を取り上げる企業博物館
特に、主要メーカーの創業と発展、“ものづくり”へのこだわりと技術を紹介

♣ ノリタケの森・ノリタケミュージアム

♣ 碍子博物館（日本ガイシ）

♣ INAXライブミュージアム

♣ 京セラファインセラミック館

♣ セラミックス博物館（日本セラミックス協会）



ノリタケの森 ・ ノリタケミュージアム



所在地：愛知県名古屋市西区則武新町

HP: (<https://www.noritake.co.jp/mori/>)



赤煉瓦工場の「ノリタケの森」



ノリタケの歴史を語る
「ウェルカム・センター」



製造過程を実感できる
「クラフトセンター」

参考：名古屋の「ノリタケ・ミュージアム」を訪ねて

<https://igsforum.com/noritake-museum-j/>

<ノリタケの杜 博物館の展示>

- ・ 伝統産業陶器を新たな形、**工業品と美術工芸を融合**させていった事業展開
- ・ **先進的なセラミック事業**にも進出しているノリタケの姿



ノリタケグループの系譜を展示



ノリタケグループの現在事業展示



ノリタケのセラミック事業展開を示す展示

♥ 「クラフトセンター」の展示



煌びな「オールドノ
リタケ」展示



陶器作りに励む職人



ノリタケ洋皿コレクション

♥ 「ウェルカム・センター」の展示



ノリタケのタイムテー
ブル



ノリタケの事業展開を示す展示



❖ 森村組とノリタケグループの発展系譜



- 日本の伝統産業陶器を新たな形で展開し工業品と美術工芸を融合
- 先進的なセラミック事業にも進出しているノリタケのビジネス

- 明治初年に**森村市左衛門**が森村組を設立
- 米国に日本の美術骨董品、雑貨を輸出する事業を開始
- パリ万博で洋式装飾食器の魅力と商品価値に着目
- 日本での**洋式磁器の製作を決意**（1889年）
- 衛生陶器部門を分離し**東京陶器（TOTO）を設立**（1917年）
- 碍子部門をに独立（**日本碍子**）（1919年）
- 戦後、工業セラミック事業に参入
（**日本レジン工業、伊勢電子工業、広島研磨工業、共立マテリアル**などを設立）
- 現在、ハイテック分野の電子回路や歯科医療、太陽光発電膜、セラミックコンデンサーなどに進出、存在感



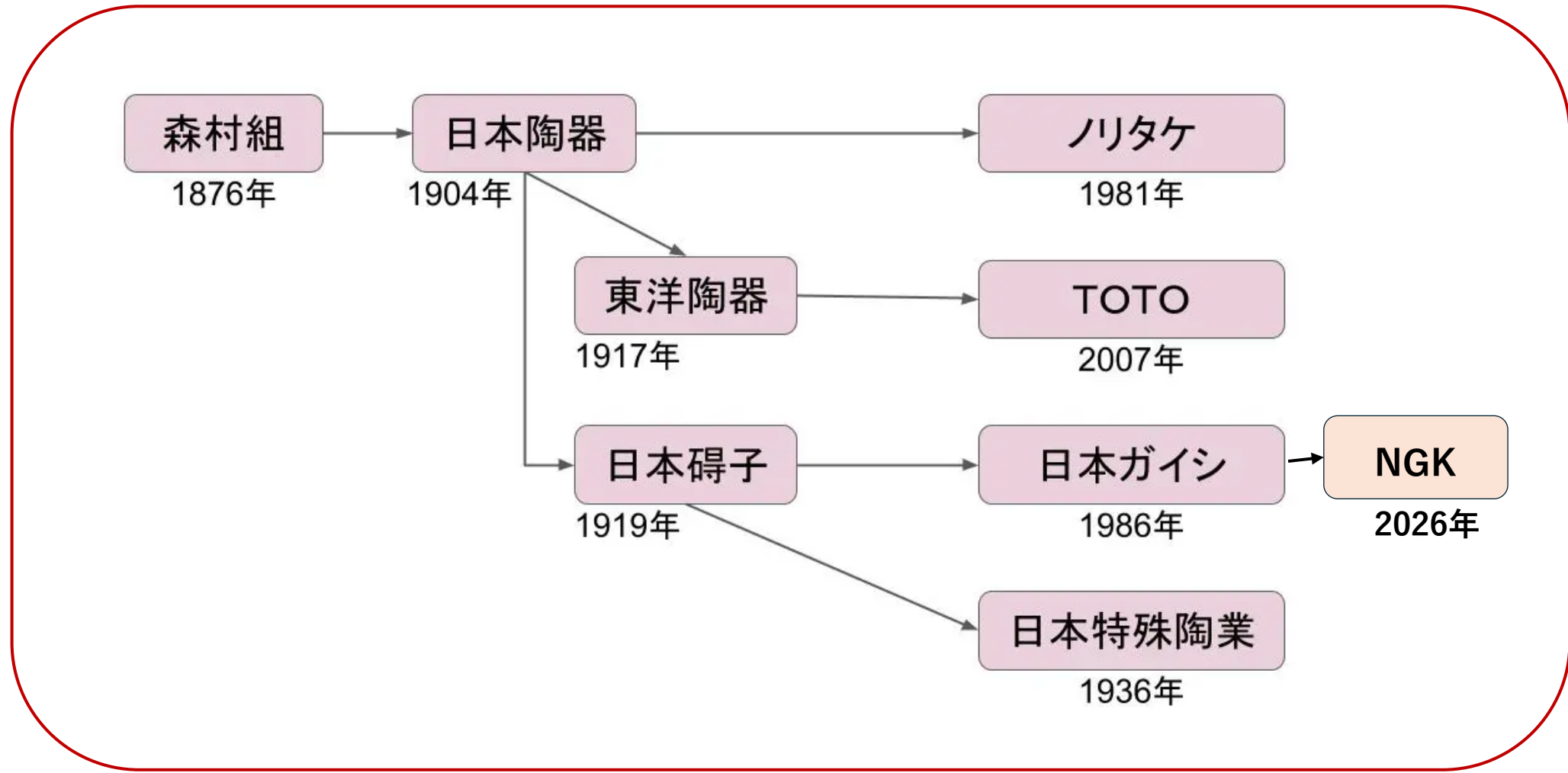
森村市左衛門



大倉和親

See: <https://igsforum.com/noritake-museum-j/>

❖ 森村組とノリタケグループの構成図



See: <https://kaito-business.com/archives/883>



TOTOミュージアム

所在地：北九州市小倉北区中島2-1-1 Tel.093-951-2534

HP: (<https://jp.toto.com/knowledge/visit/museum/>)



- 1917年に衛生陶器の「**東洋陶器**」(現**TOTO**)を設立(創業者は森村組の**大倉和親**)
- 当初、陶器便器は販売不振、食器販売を伸ばしつつ開発と製造継続
- **戦後、住宅団地**の建設が「洋式便器」の採用、**衛生陶器の普及**
- 温水洗浄便器**ウォッシュレット(1970s)**、節水洗浄便器(1980s)などがヒット商品に



衛生陶器の進化の歴史



衛生陶器のバラエティー



ハイテクの衛生陶器内部



♣ 碍子博物館（日本ガイシ）

所在地：名古屋市瑞穂区須田町2番56号 Tel.052-872-7181

HP: <https://www.ngk.co.jp/rd/labo/museum.html>



日本ガイシ本館



碍子博物館の展示場



博物館の碍子展示



世界の碍子



高性能碍子

♥ 日本碍子の創業と発展

- 1919年に**日本陶器**（現・ノリタケ）からガイシ製造部門を分割、**日本碍子設立**
- 1936年には スパークプラグ部門を分社化し**日本特殊陶業**を設立
- 1986年、社名を**日本ガイシ**に変更
- 2026年4月 社名をNGKに変更

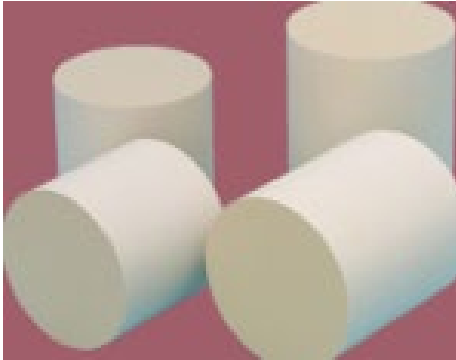


大倉和親
（初代社長）



創業当時の日本碍子工場

♥ 近年の日本ガイシ (NGK)のハイテク製品・装置



自動車排ガス浄化
用触媒担体「ハニ
セラム」(1976)



低レベル放射性廃棄
物焼却装置(1978)



チップ型セラミック
二次電池(2018)

・ 参照: <https://www.youtube.com/watch?v=XqOvkauxG-E>

“競争激しい半導体市場へ…日本ガイシが『NGK』に・・・社名変更の背景に“祖業からシフトチェンジ”

♣ INAXライブミュージアム

所在地：愛知県常滑市奥栄町1-130 Tel.0569-34-8282

HP: (<https://livingculture.lixil.com/ilm/>)

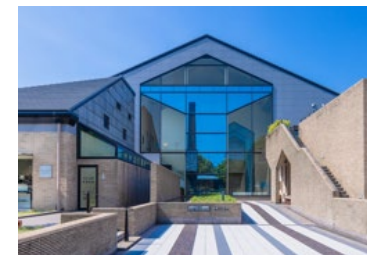
- ・ 常滑市で創業したINAX（旧伊奈製陶）が提供するものづくり文化施設
- ・ 同社の製作する歴史的な陶磁器、タイル、建材などを展示するほか、**やきものの歴史や技術を紹介**
- ・ 施設は「**窯のある広場・資料館**」「**世界のタイル博物館**」「**建築陶器のはじまり館**」など



ライブミュージアム概念図



窯のある広場資料館



世界のタイル博物館



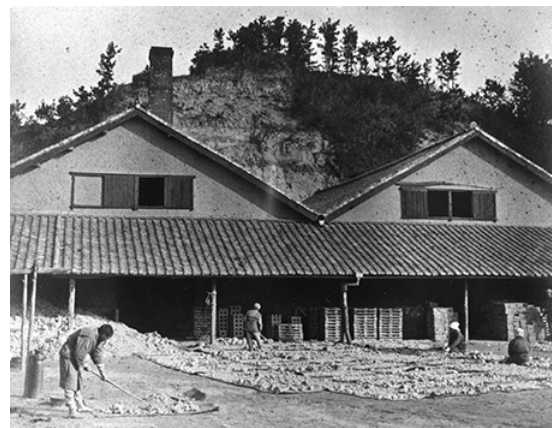
建築陶器のはじまり館

INAX ❖ INAX（イナックス）の創業と背景

- **初代伊奈初之丞**が1921年（大正10年）に**大倉和親**の支援を受けて伊奈製陶所を創業
- 当初陶管（土管）やタイル等の建設用陶器を製造
- 伊奈初之丞の長男伊奈長三郎が法人化し**伊奈製陶株式会社**を設立（1924年）
- 衛生陶器の製造を開始（1924年、東洋陶器株式会社とライバル関係に）
- 伊奈製陶は株式会社**イナックス**に**商号**変更(1985年)
- 日軽、東洋エクステリア、新日軽、東洋エクステリア、**LIXILと合併**（2011年）
- **LIXIL**が展開する衛生陶器・住宅設備機器・建材のブランド名がINAXとなる
- INAX（イナックス）は、現在のLIXILの前身の一つ



伊奈初之丞



当初の作業場



スクラッチタイル製作

♥ 「窯のある広場・資料館」

→ 土づくり”と“やきもの”の歴史や技術を紹介



窯のある広場・資料館



製造に使われた道具
や機械



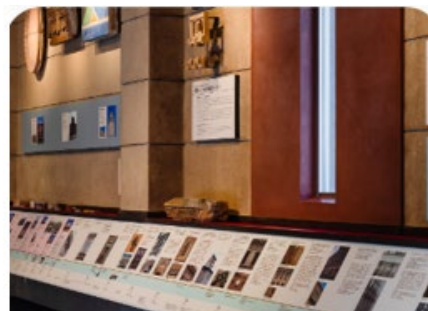
両面焚倒焰式角窯

♥ 「建築陶器のはじまり館」

→ 明治から1930年代の建築陶器全盛期までの代表的なテラコッタを展示



建築陶器のはじまり館



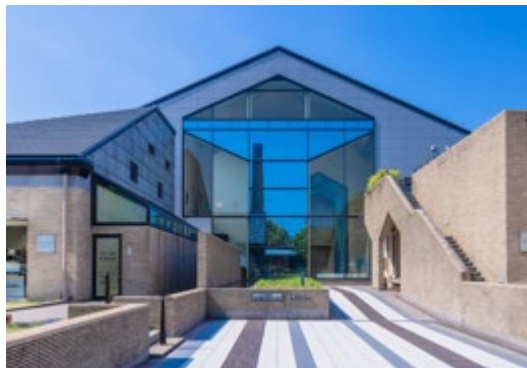
歴史的なテラコッタ
の展示



警視庁庁舎に使われ
たタイル(1931)

♥ 世界のタイル博物館

→ 紀元前から近代までの世界の装飾タイル7000点以上を収蔵、展示を通してタイルの美しさと先人の熱き装飾の心を体感できる



世界のタイル博物館



博物館の展示場



化粧タイル



世界の装飾タイル展示

最後に・・・

以上にみたるように：

「博物館にみる産業資本形成とものづくり技術の系譜」として二つを例示、

- **銅鉾山開発の歴史**を映す博物館
- **陶磁器とセラミックス技術**の発展がみえる博物館

♣ 史跡・産業博物館は

- 日本の「ものづくり文化」の成り立ちを示す社会文化財
- 日本の産業資本創成の系譜を示す文化遺産
- 日本の産業技術発展を跡づけることのできる社会財産

「産業遺産と博物館を巡る」

(完)

・ 参照：

講演資料「産業遺産と博物館を巡る」 | Asia Japan Techno-Museum Forum Blog Info

各地の銅鉾山

—四大銅鉾山以外の銅鉾山の動向—

♠ 尾去沢鉱山（1978年閉山）

所在地：秋田県鹿角市尾去沢猪子沢13-5

→ 尾去沢鉱山は、鉱脈型銅鉱床と呼ばれ脈状の銅鉱脈を採掘した鉱山。尾去沢鉱山の**発見は奈良時代の和銅元年（708年）**であると伝えられている。江戸時代の尾去沢鉱山では、山師や商人が直接鉱山の経営を行い、採掘の量に応じて運上金を取る「請山」と、藩が直接経営する「直山」の方法でその運営が行われていた。しかし「直山」の場合であっても、実際の仕事は山師に行わせることが多かった。

尾去沢鉱山は、**明治に岩崎家(三菱)に鉱業権**がわたり、以降閉山までの約90年の間、三菱の経営により銅山として最大のピークを迎えました。

その後、海外での大規模鉱山開発が進み、世界的な過剰生産と急激な円高により銅価格が低迷したことや尾去沢鉱山の銅鉱石が枯渇したことにより、昭和53年1270年にわたる長い鉱山の歴史に幕を閉じました。 [See: http://www.osarizawa.jp/course/ishikiri.php](http://www.osarizawa.jp/course/ishikiri.php)



♠ 八総銅山（1876年～1970年閉山）

所在地：福島県南会津郡の田島町および舘岩村（現南会津町）

→ 1906年（明治39年）に池上仲三郎が鉋業権を譲り受け、鉋山開発を行い、1919年（大正8年）の休山まで採掘、製錬を行った。1928年（昭和3年）久原鉋業に採掘権が移り、1933年（昭和8年）日本鉋業が所有し、日満鉋業の経営を経て、1946年（昭和21年）に休山した。在、現地には、選鉋場跡地に稼動中の中和処理場があり、通洞坑跡、鉋滓沈殿池跡、選鉋機械の基礎コンクリート跡等が残る。 [八総鉋山 - Wikipedia](#)



八総鉋山のズリ山（奥）と選鉋場跡地

♠ 尾小屋鉱山（1880年操業～1962年閉山）

所在場所：石川県小松市尾小屋町

→ 尾小屋鉱山の始まりは詳しくは知られていない。本格的に採掘がおこなわれるようになったのは明治時代に入ってからといわれる。**明治13年（1880年）、吉田八十松らが採掘**を始めた後、横山隆平が鉱業権の取得を進めて「**隆宝館・尾小屋鉱山**」と命名して本格的な鉱山経営が行われた。明治19年（1886年）に良質な鉱脈を発見し産銅量は増大。**明治37年（1904年）には、尾小屋鉱山と平金鉱山（岐阜県）を合併し、合名会社横山鉱業部を創立**して有数の鉱山へ発展した。しかし、1920年頃より経営が悪化し、**1931年に宮川鉱業、続いて日本鉱業株式会社へ譲渡**された。また、良質鉱の枯渇、製錬コスト上昇、外国から安価な銅の輸入増大などにより経営が悪化し、昭和37年（1962年）には尾小屋鉱山本山が閉山している。なお、尾小屋鉱山の歴史を記した資料館「尾小屋鉱山資料館」が小松市によって開設されている。「**尾小屋鉱山資料館**」がある。



尾小屋鉱山資料館外観



尾小屋鉱山跡

♠ 吹屋銅山（吉岡鉾山）（開坑?～1971年閉山）

所在地 岡山県川上郡成羽町吹屋（現：高梁市）

→ 江戸時代中期頃より、幕領地として吹屋銅山を中心とする鉾山町へと発展。幕末頃から明治時代にかけては、銅鉾とともに硫化鉄鉾石を酸化・還元させて人造的に製造した**ベンガラ（酸化第二鉄）における日本唯一の巨大産地**となっている。

現在、吹屋銅山笹畝坑道が岡山県の観光スポットになっている。

See: <https://www.okayama-kanko.jp/spot/10878>

[吉岡鉾山 - Wikipedia](#)



吹屋銅山笹畝坑道

♠ 温川銅山（1987年採掘開始～1994年閉山）
所在地：青森県平川市切明

→ 日本国内の閉山ラッシュが多い時代に輸入資源に依存することを回避すべく、**1987年から1994年まで同和鉱業により金・銀・銅・鉛・亜鉛が採掘**された。急激な円高の中で資源を獲得するために誕生したが、様々な事情により、短い期間で閉山。現在も卯根倉鉱山により坑廃水処理が行われ管理されている。

参照：温川鉱山 - 廃墟検索地図 <https://haikyo.info/s/13212.html>



温川鉱山坑道口

♠ 花岡銅山（1885年採掘開始～1994年閉山）

→ 1885年に秋田県北秋田郡花岡村で発見された。主要な鉱石は、**黒鉱と呼ばれる閃亜鉛鉱や方鉛鉱**であり、良質な鉱石からは亜鉛や鉛などのほか金、銀などの貴金属も採取していた。日本の金属鉱山としては珍しく、**大規模な露天掘り**が行なわれていた。戦後は松峰鉱山、深沢鉱山（1969年鉱床発見）、餌釣鉱山（1975年鉱床発見）など支山の開発に注力し、人工天盤下向充填採掘法、トラックレス鉱石運搬方式など新技術を導入するなど積極的な事業を展開。しかし、1994年（平成6年）に採算がとれなくなり閉山。

参照：[日本の銅鉱山（銅山）一覧【8選】（滋賀県非鉄金属リサイクルブログ）](#)



<https://haikyo.info/s/948.html>

花岡鉱山跡



<https://haikyo.info/s/948.html>

[前に戻る](#) ↑

産業陶器とセラミックスの博物館 (B) (博物館紹介)

Posted on [September 14, 2024](#) by [kunioigusa](#)

ー近代産業としての陶磁器とセラミックスの発展をみるー

♣ ノリタケの森・ノリタケミュージアム

所在地：愛知県名古屋市西区則武新町3-1-36 Tel.052-561-7114

HP: (<https://www.noritake.co.jp/mori/>)

参考：名古屋の「ノリタケ・ミュージアム」を訪ねて <https://igsforum.com/noritake-museum-j/>

♣ TOTOミュージアム

所在地：北九州市小倉北区中島2-1-1 Tel.093-951-2534

HP: (<https://jp.toto.com/knowledge/visit/museum/>)

参考：九州・小倉のTOTOミュージアムを訪ねる/ <https://igsforum.com/visit-kokura-toto-m-jj/>

♣ 碍子博物館 (日本ガイシ)

所在地：名古屋市瑞穂区須田町2番56号 Tel.052-872-7181

HP: <https://www.ngk.co.jp/rd/labo/museum.html>)

♣ INAXライブミュージアム

所在地：愛知県常滑市奥栄町1-130 Tel.0569-34-8282

HP: (<https://livingculture.lixil.com/ilm/>)

♣ 京セラファインセラミック館

所在地：京都府京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地 Tel.075-604-3518

HP: <https://www.kyocera.co.jp/fcworld/museum/>)

参考：京セラ「ファインセラミック館」の見学記

録 <https://igsforum.com/2022/09/24/kyocera-fineceramic-museum-jj/>